



第35号

平成22年9月27日発行
千葉県漁業士会銚子支部
＜事務局＞
千葉県銚子水産事務所 改良普及課

銚子・海匠 農山漁村いきいきフォーラム

7月29日（木）に男女共同参画の推進を目的とした「平成22年度農山漁村いきいきフォーラム in 海匠」が東総文化会館の小ホールで行われました。

今年度は「海匠の農林水産を担うホープ達」というテーマで、農林水産それぞれの分野から事例発表がありました。水産からは海匠漁業協同組合所属の遠藤 青年漁業士が「こらからのために（未来へ向けた取り組み）」という題で発表を行い、日常の操業の様子や日々の取り組み事例を紹介していました。会場の9割を占める農業関係の方々も普段聞く機会のない漁業の話に興味深く耳を傾けていました。

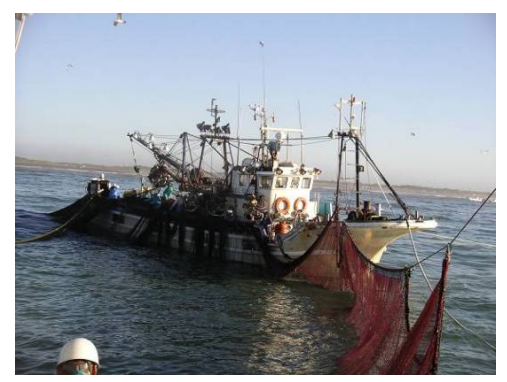
また、NPO 法人農家のこせがれネットワークの宮治勇輔氏からは、「1次産業をカッコよくて感動があって稼げる3Kに」という題で、養豚業の魅力について講演が行われました。

銚子市漁業協同組合や海匠漁業協同組合からも、多くの方が会場に集まり、会場の雰囲気盛り上げてくれました。



海匠 インターンシップ

8月5日（木）・6日（金）にかけて、高校生を対象とした、まき網漁船による乗船・操業体験（インターンシップ）を実施しました。これは、次世代を担う若者を対象に漁業を体験してもらい、新規漁業就業者の確保・定着を支援するためのものです。今回、インターンシップには、林 青年漁業士（まき網・林丸）のご協力をいただきました。このインターンシップに参加した研修生は、旭市内に在住の高校生で、家では一本釣り漁業を営んでいます。



インターンシップ当日は、日の出前に出港し、九十九里沖から犬吠沖にかけて操業が行われました。この時は、カタチイワシが漁獲され、まき網漁船の操業を直に体験してもらい、多くの人の手際良い作業を見て、研修生は非常に感心した様子でした。将来自分が漁業を営んでいくうえで非常に参考になったとのこと、この2日間は有意義な研修になったことと思います。

銚子 漕出式（小型底びき網）

8月26日（木）に小型底びき網（板びき網）の漕出式が行われました。これは毎年、小型底びき網漁業が解禁（6月～8月は禁漁期間です。）となる9月1日直前の大安の日に、大漁と操業安全を祈願して川口沖合いを航行するものです。

当銚子支部所属で、この漁業を営んでいる小畑青年漁業士は、今漁期こそ大漁であるように大いに期待をしていました。出港した各漁船は、河口の「川口神社」付近で旋回を繰り返し、お神酒を船や海に注ぎ清めながら、約1時間程で漕出式を終えました。

ちなみに、昨年（平成21年）は、10月から12月にかけて大型クラゲが大量に出現し、その大量入網による漁具の破損や漁獲物の損傷により、一時期操業そのものが成立しなくなるといった状況になりましたが、今年は、大型クラゲの出現がなく、大漁と操業安全を祈るばかりです。



全域 ヒラメ放流・マダイ中間育成

ヒラメの種苗放流とマダイの中間育成・放流が今年も7月から8月にかけて銚子・海匠・九十九里の管内各地で行われました。

今年は、天候に恵まれたものの猛暑が続き、マダイの種苗も夏バテにならないか心配になりましたが、漁業者の皆さんの努力もあり、マダイの生育は順調でした。8月31日（火）に銚子市漁業協同組合外川地区で行われたマダイの放流をもって管内すべての放流を無事に終えることができました。



ご意見やご感想、情報提供などありましたら、
千葉県銚子水産事務所 改良普及課までご連絡ください。
連絡先：電話 0479-22-8397 (代)
FAX 0479-22-9168